

議事要旨

会 議 名	第4回 「(仮称)はちおうじ未来デザイン 2040 」懇談会
日 時	令和3年(2021年)12月20日(月)午後7時00分～9時10分
場 所	学園都市センター 第5セミナー室 オンライン(Microsoft Teams)
出 席 者 氏 名	<p>参加者</p> <p>拓殖大学 教授 新田目 夏実 氏 東京都立大学 教授 市古 太郎 氏 東京都立大学 准教授 杉原 陽子 氏 法政大学 教授 淵元 初姫 氏 明星大学 教授 河合 美香 氏 八王子市町会自治会連合会 副会長 (八王子市町会自治会連合会推薦) 尾寄 敏夫 氏 八王子商工会議所 常議員 (八王子商工会議所推薦) 加藤 正道 氏 NPO 法人八王子子ども劇場 代表理事 (八王子市民活動協議会推薦) 浅野 里恵子 氏 東京工科大学大学事務局学務部 部長 (大学コンソーシアム八王子推薦) 豊嶋 信一 氏 こども食堂ふくろうはうす 代表 (八王子市社会福祉協議会推薦) 細田 明菜 氏 みなみ野小中学校学校運営協議会 代表 荒井 嘉夫 氏 八王子にほんごの会 役員 宮武 茜 氏 高尾の森自然学校 代表 梶浦 正人 氏 市民参加者 下村 麻子 氏 市民参加者 小幡 未紀 氏</p> <p>事務局</p> <p>未来デザイン室 室長 今川 邦洋 未来デザイン室 長期ビジョン担当主幹 志村 慶太 未来デザイン室 主査 羽生 勇次 未来デザイン室 主任 小山 清史 未来デザイン室 主任 無藤 一貴</p>
欠 席 者 氏 名	八王子障害者団体連絡協議会 代表 杉浦 貢 氏
議 題	(1) みんなで目指す 2040 年の姿(後半:姿⑥～⑧) (2) みんなで目指す 2040 年の姿(後半:姿⑨～⑪)
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	—
傍 聴 人 の 数	1 名
配 付 資 料 名	資料1:「第3回懇談会における意見一覧」 資料2:「みんなで目指す 2040 年の姿(後半:姿⑥～⑪)」 追加資料:八王子市ビジョン 2022(2018 年基本計画改定版)「計画体系図(P16～17)」

会議の内容
(1)

次第1 開会

【事務局】

事務局より、当日参加者の確認及び配付資料の確認。

<欠席者:1名>

杉浦 貢 氏

<Web参加者:5名>

細田 明菜 氏、荒井 嘉夫 氏、宮武 茜 氏、下村 麻子 氏、小幡 未紀 氏

<資料>

資料1:「第3回懇談会における意見一覧」

資料2:「みんなで目指す2040年の姿(後半:姿⑥~⑩)」

追加資料:八王子市ビジョン2022(2018年基本計画改訂版)「計画体系図(P16~17)」

次第2 第2回及び第3回懇談会議事要旨

第2回及び第3回懇談会議事要旨の公開時期、第3回懇談会でいただいた意見一覧について事務局より説明。

次第3 議題

1 計画体系の全体像等について座長より説明

<座長説明要旨>

次期基本計画として「長期ビジョン」を策定し、「みんなで目指す2040年の姿」と今後の取り組むべき施策を示す。特に、「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、2030年度までの重点テーマと取組方針について、本懇談会では議論を行う。

本日は後半の姿⑥~⑩について、背景にある具体的な都市像、施策の内容も適宜参考にしながら、議論したいと考えている。

みんなで目指す2040年の姿(前半:姿⑥~⑧)について事務局より説明

<事務局説明要旨>

資料2の3~8ページについて、みんなで目指す2040年の姿(後半:姿⑥~⑧)を整理している。

⑥ 「一人ひとりが高い防災意識を持ち、互いに支えあいながら、強さとしなやかさを持ったまちで安心して暮らしている。」

⑦ 「行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき、便利で快適な生活を送っている。」

⑧ 「地域産業のイノベーションによって、より便利で豊かな生活を享受して暮らしている。」

姿⑥、⑦、⑧について、「背景」や「実現に向けた方向性」がそれぞれ反映できているか、過不足はないかについて、御意見をいただきたい。

2 意見交換

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑥のについて議論したい。最も関連する都市像は④である。

会議の内容
(2)

【下村麻子 氏】

キャッチコピーに対する評価と捉えてよいか。

【事務局】

それぞれの姿に共感できるかという視点で御意見をいただいてもよいが、資料で整理した「背景」や「実現に向けた方向性」の過不足、また、それらが「姿」の文言に反映できているかについても御意見をいただきたい。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

企業では、自然災害や感染症、テロ等の災害発生後の対応が重要である。そのためには、事業継続計画(BCP)の策定が重要であると考えますが、中小企業における BCP 策定率は 15% 程度である。市から積極的に推進いただきたい。

八王子市は交通の要衝であるが、災害発生後においては、特に、物流機能が重要である。物流機能のシステム構築を進める必要がある。

【事務局】

姿⑥は「一人ひとりが高い防災意識を持ち、互いに支えあいながら、強さとしなやかさを持ったまちで安心して暮らしている。」であるが、災害発生後の復興力は「しなやかさ」という文言で表現している。施策の方向性にて引き続き検討していきたい。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

研究として、荒川区の中小企業における BCP 策定促進に取り組んでいる。荒川区では、個々の企業の BCP 策定のみが目的ではなく、地域全体として産業回復を図るという狙いも込めて進めている。地域全体の産業回復という観点を入れることで、BCP の活用支援における市の取組も広がるのではないかと。実際に、2007年の新潟県中越沖地震では、避難所を結ぶ道路、重要な工場を結ぶ道路のいずれを優先させるか、産業回復のジレンマがあった。事前に地域としての産業回復計画があれば、迅速な意思決定ができる。

また、姿⑥では「一人ひとりが高い防災意識を持ち」とあるが、施策としてどのように実現するのか。

【事務局】

BCP 策定の必要性を改めて実感した。

質問いただいた「一人ひとりが高い防災意識を持ち」については、背景として、防災力を高めるためには、一人ひとりの意識や地域における防災の取組が必要である、との声を市民から多くいただいたことがある。現在も様々な取組を進めてきているが、さらに取組を展開する必要があると考えている。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

方向性に異論はない。今回の議論は、現行計画の施策 30「防災体制の充実」のうち、施策の展開「2 自助・共助体制の充実」の内容に該当すると考えているが、ここでは、自主防災組織に重きが置かれている。一方、本日の資料2の 4 ページの「実現に向けた方向性」では「つながりの広がりや多様な連携による地域防災力の強化」が掲げられている。「多様な連携」の主体は、町会・自治会や自主防災組織のみでよいのか。それに加えて、市民レベルのネットワークも発生しており、災害時の重要な主体ではないかと考えている。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

レジリエントなまちづくりを実現するためには、コミュニティが生きることが重要である。阪神淡路大震災においても、復興が早かった地域はコミュニティがしっかりしていた。

そのためには、新たなつながりや連携を構築するのか、今ある町会・自治会を強化していくか、2通りの方法がある。それを踏まえて一言追記いただきたい。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

1 点目は、背景に「高齢者をはじめとする災害弱者(災害時要援護者)への対応の必要性の高まり」とあるが、それに対応した実現に向けた方向性はどれか。前提として、背景、実現に向けた方向性の各項目は必ずしも一対一で対応している必要はないが、ある程度紐づけができたほうが望ましいと考えている。

2 点目は、背景、実現に向けた方向性にそれぞれ「自助・互助・共助」とあるが、「公助」が含まれていないのはなぜか。

3 点目は、姿⑥中のレジリエントという単語が何を意味しているかわからない人もいると思うので、「復興力」と記載してはどうか。

【事務局】

1 点目の質問については、実現に向けた方向性の「自助・互助・共助を支える防災情報伝達の強化」等が対応するものとして挙げられる。

2 点目の質問については、姿の前半部分は自助・互助・共助を念頭に置いて作成しているが、後半部分では、公助として、ソフト・ハード面で強いまちを行政が作っていることを示しており、そのため敢えて「公助」という表現を外している。

3 点目の質問については、「復興力」の表現の分かりやすさを鑑みて、検討したい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「背景」と「実現に向けた方向性」の対応関係については、今後の議論の参考にもなる。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑦の議論に進みたい。

【NPO 法人八王子子ども劇場代表理事 浅野里恵子 氏】

ベビーカーを押して移動する際に、高尾駅ではエレベーターがなく困った経験がある。現在の姿⑦では、「誰でも」という表現が抜けていると感じる。バリアフリー化を進めていただきたい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

同感である。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

市で実施している市政世論調査結果では、市政への不満・要望として「買い物に行けない」が毎年上位に挙がっていると認識している。また、各地域での話し合い結果からも、買い物難民が年々増えていると感じている。地域の方々が独自に送迎サービスを実施している例もあり、今後は行政がそうした地域の力を育てていく必要があるのではないかと考えている。

先程の事務局説明にて、背景の「カーシェアリングや駐車場マッチングサービスの広がり」の例としてタイムズの話が挙がったが、町自連にも、町会の会館の駐車場で同じように使える駐車場がないかという話が来ていた。

会議の内容
(4)

【明星大学教授 河合美香 氏】

登録している個人同士で未利用の駐車場を貸し借りできる akippa というサービスがある。新たに土地を探すことも難しいため、方向性として検討していただければよい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

背景に「カーシェアリングや駐車場マッチングサービスの広がり」という表現はあるが、実現に向けた方向性には対応する項目がない。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

姿⑥の背景では課題が挙げられているが、姿⑦ではそうではない。実現に向けた方向性を検討するためにも課題の記載は重要であるため、姿⑦でも同様に、買い物難民やバリアフリーといった課題を挙げてはどうか。

また、実現に向けた方向性の中には、「行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき」に還元できないものも混在している。どのように理解すればよいか。

【事務局】

御指摘の通り、「行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき」に必ずしも対応していない項目もある。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

例えば、実現に向けた方向性で挙げられている「道路を活用した賑わい溢れるコミュニティ空間の創出」はアクセスの話か。

【事務局】

姿⑦はすべてアクセスの話と捉えているわけではない。アクセスの利便性に加え、より快適で賑わいのある生活も含めている。

先程話に挙げたバリアフリーは、例えば、実現に向けた方向性の「安心・快適な歩行空間の確保」に含まれるものとする。また、買い物弱者の問題は、地域公共交通の構築に加え、方向性の中で取組を検討していく。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

買い物弱者は大きな問題のため、それに対する方向性を記載いただきたい。

また、「実現に向けた方向性」は、姿⑦に対応する方向性として理解してしまうため、直接結びつかないものについては、別の部分で整理されるほうがよいのではないかと。

「行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき」はどのような内容を想定しているのか。買い物難民やバリアフリーがなされておらず、荷物を抱えて困っている人や生活上の課題を抱えた人に焦点を当てた表現がよいのではないかと。

会議の内容
(5)

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

幾つか腑に落ちない表現があるが、この場で納得のいく表現を提案することは難しい。
今後、姿①～⑩を再整理することはできないか。

姿⑦の「実現に向けた方向性」で言えば、利便性に留まらず、周辺市街地の回遊性や公共空間の賑わいの話が挙がっているが、テーマとして異なる印象を受ける。仮に、両方を含めるのであれば、姿⑦の文言も両方の要素を入れる必要があるのではないか。

また、「実現に向けた方向性」のうち、「都市の集約化」が「コンパクト化の推進」と並列で表記されていることには違和感がある。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

高齢者の運転免許返納の話があるが、交通アクセスの問題が十分解消されなければ、高齢者も返納しづらい。そういった要素が付け加わってもよい。

【高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏】

2040年を考えると、自動運転が相当に進んでいる可能性がある。

それを踏まえ、実現に向けた方向性に挙げられている「公共交通システムの構築」「自動運転やMaaSなど先端技術」の要素について、姿⑦の文中でもより表記してよいのではないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑧の議論に進みたい。

人材育成の話が姿⑧の文言中に反映されていないことが気になっている。

【明星大学教授 河合美香 氏】

イノベーションという表現があるが、これは経済学で言う「持続的イノベーション」か「破壊的イノベーション」か。実現に向けた方向性では、既存企業の持続化の話に加え、新たな産業創出も記載されているが、より明確に表現できるとよい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑧に記載のある「地域産業のイノベーション」は容易に実現できるものではない。

また、現行計画では「地域資源を活用する産業の振興」という施策があるが、今回の案では、地域のリソースを活かすという表現がないと感じた。明確に表現してもよいのではないか。

【事務局】

姿⑧で意図した「イノベーション」は新しい何かを創出するだけでなく、既存の産業資源を組み合わせることも念頭に置いている。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

理解した。

最終的に各姿の文言を修正した場合、「背景」や「実現に向けた方向性」の文章は公表されるか。

【事務局】

1月15日からパブリックコメントを実施する予定であり、「都市像」、「姿」、「背景」、「実現に向けた方向性」の内容はそのまま示すことを想定している。

会議の内容
(6)

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

最終的な計画冊子において「背景」、「実現に向けた方向性」まで記載するとすると、過不足について批判を受けることになるのではないかと懸念している。説明文を整理する必要がある。

【事務局】

原案の示し方は今後検討していくことになる。

なお、これまで、2040年の姿としての実現可能性について御意見を多数頂戴したと理解している。八王子市として、2040年までに実現したい姿として示すに留め、具体的な施策は2030年に向けて検討していきたい。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

地域づくり推進会議が始まる等しているが、地域で様々な活動をしている方々が今の案を見た場合、現在のそれらの活動が2030年、2040年にどのように繋がるかがよくわからないのではないかと懸念している。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

「便利で豊かな生活」とあるが、2040年に向けて我々は果たしてそれを求めているのか。高度経済成長期のモデルのように感じる。

人口減少の中で、どのようにみんなで協力して持続可能な社会を構築するかが重要であり、そういったキャッチコピーの方がしっくり来るのではないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑨の議論に進みたい。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

実現に向けた方向性の中で、「MICEの推進」とあるが、誘致は全国的にも難しい。そのためには、羽田空港から八王子、あるいは日本各地と八王子を結ぶ直通バス等の運行、大規模なバスターミナルの整備等、交通アクセスの利便性向上が重要ではないか。

また、八王子の魅力の一つである高尾山とMICEツーリズムを組み合わせ、検討を推進する必要がある。

【下村麻子 氏】

「お気に入りの」という表現に違和感がある。

高尾山以外の八王子の魅力として、絹があるのではないかと考える。昔、絹のまちとして栄えたと聞いているが、今は衰退している印象を受けている。保護できないか。

【事務局】

「お気に入りの」という表現は、市民それぞれが感じている八王子のお気に入りの場所、自然、風景等をイメージして作成した。

【下村麻子 氏】

「世界が」という表現があるが、規模があまりにも大きすぎるのではないかと感じた。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏】

2040年には、全市民が八王子市を大切に思うようになっていくことを意図した表現と考えている。「市民の誰もが」という表現を加えてはどうか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

そもそも魅力を「発信」する必要があるのか。また、誰が発信するのか。
八王子市に対する愛着を実感することが課題であると考えている。

【事務局】

「みんなで目指す2040の姿」の位置づけの難しさを感じている。もちろん現状の課題も認識しているが、理想を掲げてどういった方向性で実現できるかについて挑戦していきたいという思いがある。

姿⑨では、市民に愛着を持っていただくことが最低限必要なことであると考えているが、その先の目標として、市民一人ひとりが魅力を発信することで、八王子市の魅力が広まるのではないかと考えた。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

八王子のファンを増やす一手段として、ふるさと納税で八王子を応援いただく方向もあるかと考える。それを記載することはできないか。

【事務局】

ふるさと納税は、シティプロモーションの中で推進している。八王子市では、寄付を集めるというよりも、シティプロモーションの一環としてふるさと納税を実施している。現状として、ふるさと納税による税収は年間1億円程度であるが、一方で、他団体への寄付者も多くいる。

また、「世界が」に関する御意見についてであるが、Web上で「Hachioji」とアルファベットで検索するとそれなりの数がヒットする。2040年に向けて、市民に八王子に対する愛着を持っていただきたいということも当然あるが、同時に世界にも発信していきたい。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

福岡県柳川市では、市民と行政が協力して、やさしい日本語で外国人を迎え入れる体制が整っている。コロナ収束後に向けて、八王子市においても、八王子の魅力を発信する仕組みを今から準備しておく必要がある。

先日、南大沢のワークショップにて、安心して住めるまちは南大沢の魅力ではないかという議論がなされた。高尾山のみではなく、こういったまちとしての魅力も発信できるのではないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

確かに、暮らしやすいまちであることは他のまちとの差別化にもなるのではないか。

【下村麻子 氏】

「実現に向けた方向性」については深く賛同する。

一方、「みんなで目指す2040年の姿」として、市民が姿⑨を見た場合に、「自分たちでもできる」「やってみよう」という最初の一步目を踏み出しづらいのではないかと考える。できることのハードルを下げたほうがいいのではないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

世界に行くのではなく、他地域との差別化も含めて検討する必要がある。

また、高尾山は単なる山ではなく、山岳信仰にも由来している。どこかで触れていただいてもよいと考える。

続いて、姿⑩、⑪の議論に進みたい。

【高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏】

姿⑩では「環境負荷ゼロ」の背景として「カーボンニュートラルを目指す」とある一方、実現に向けた方向性では「再生可能エネルギーの導入推進・普及」とあるが、姿や背景の表現に比して、トーンが低いのではないか。

また、八王子市は今日でも全国でトップクラスのごみ分別を実施しているにもかかわらず、2040年の姿として、「3Rの推進」が掲げられていることについて違和感がある。

【事務局】

1点目の「再生可能エネルギーの導入推進・普及」については、国の方向性の表現を踏まえて作成している。

2点目の「3Rの推進」については、循環型社会実現は2040年においても必要であると考えており、引き続き進めていきたい。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

2040年に向けてゼロカーボンを実現する過程では、エネルギーの価格維持・安定供給との施策のバランスを図る必要がある。

また、堆肥等の有機物が多い土壌では、炭素貯留が大きいと聞いたことがある。耕作放棄地に対してそういった方策は考えられるのか、また、現在、市では検討しているのか。

【事務局】

詳細な方向性についてはこの場でお答えすることはできないが、姿⑩において農地は非常に重要である。どのように持続可能な農業を維持できるのかといった議論の中で関係する事項ではないかと考えている。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

自身の経験として、子どもの頃は市内の川で泳いでおり、染色業の方々が反物を洗っていた。その後、ヘドロが発生する時代があったが、今では鮎が戻ってきて、川の中で遊べる状態になっている。自然を壊すのも人間であるが、戻すのも人間であるということ、今の若い人たちにも知らせる機会があるとよい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑩にも関連する御提案かと考える。

【法政大学教授 淵元初姫 氏】

これまでの議論や11の姿の内容全体を踏まえ、現在、明記はされていないものの、様々な取組の土台となり得る「市民の公共心の醸成」や「公共に対する我々市民の取組方」といった都市像をいかに考えて反映させるかという点が重要であると考えている。姿においてこの点をどのように表現するか検討する必要があると感じる一方、「みんなで目指す2040年の姿」とあるが、「みんな」については、全体を強調することによって強制にならないような配慮が必要である。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

姿⑩について、最近3Rではなく、Refuse(リフューズ)も加わって4Rになっていると聞いている。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

姿全体を見た場合に、相互の姿が有機的に繋がり、齟齬のない状態が理想である。環境の負荷を低減して自然と調和するという目標があるならば、姿⑧で現状掲げられている「便利」「豊かさ」という表現は控えたほうが良い。

会議の内容
(9)

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

姿⑩、⑪は市民レベルでできることは入れないのか。近年、シェアリングサービスが活発化している中で、例えば、学校の学用品も共有・リサイクルを推進することが重要と考えるが、ここに入れられるのか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

生活の場における環境意識は非常に重要である。

【事務局】

姿⑩、⑪については、例えば姿⑩の「地域で実践し」という表現にもある通り、一人ひとりの行動も含まれるものとして作成している。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

そうであれば、実現に向けた方向性の中で明記できないか。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

地域の方々と里山塾の活動を行っている。行動しなければ里山は守れない。現行計画の「第1編 みんなで担う公共と協働のまち」と、姿⑩⑪がどのように繋がるか非常に興味がある。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

高尾山は十分有名な山であるが、実は三山ある。三山一体として、インフラ整備を進めて、魅力を発信する必要がある。

農業の衰退について、プロダクトアウトではなく、マーケットインの考え方を広める人材の登用が必要である。

また、耕作放棄地の事業化に向けて補助・助言が今後必要である。

【明星大学教授 河合美香 氏】

2040 年を見据えた場合、農業においてもデジタル化は必須である。ドローン等の先端技術の活用といった表現を付け加えることで、人口減少下における解決策の一つとなり得るのではないかと考える。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「都市農業」はそれぞれどういったものをイメージされているか。

【事務局】

現行の農業振興計画の表現をそのまま踏襲している。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

補足説明を掲載した方がよいのではないか。

「みんな」に私は含まれるのか、含まれないのか、というコメントが返ってくる可能性があり、再考する必要がある。

次第4 事務連絡

事務局より、事後の意見聴取方法は後日案内すること、第5回懇談会は、1月18日(火) 19:00～21:00 に学園都市センター第5セミナー室で開催すること、資料に関しては事前配付を予定していることを説明。

次第5 閉会

以上